

都道府県事業実施状況報告書及び評価報告書

I 産地競争力の強化を目的とする取組用

(三重県 平成27年度)

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象作物・畜種等名)①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績①	メニュー② (対象作物・畜種等名)②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	特別枠加算の取組の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考	
				計画時 (平成23年)	1年後 (平成24年)	2年後 (平成25年)	3年後 (平成26年)	目標値 (平成26年)	達成率				計画時 (平成23年)	1年後 (平成24年)	2年後 (平成25年)	3年後 (平成26年)	目標値 (平成26年)	達成率					交付金	都道府県費	市町村費	その他					
津市	津安芸農業協同組合	土地利用型作物(水稲)	1等米比率の向上(10ポイント改善)	52.2%	65.6%	39.9%	11.4%	65.0%	-319%	等級比率低下のひとつの要因となっている白未熟粒の軽減対策の手法として、土壌改良資材の施用促進と軽減資材の普及、圃場巡回による病害虫防除の徹底指導等を行った。また、担い手農家に対しては、色彩選別機の導入と施設利用推進を行った。しかしながら、26年度においては、8月上旬に接近した台風の影響およびその前後の降雨による倒伏被害が全域でみられ、また8月から9月上旬にかけては、記録的な日照不足で登熟が遅れ、品質・収量が低下し、1等米比率が低下した。	土地利用型作物(水稲)	三重23号の取組面積拡大(作付割合を3%以上向上)	0%	0.23%	0.63%	1.2%	3.2%	38%	栽培研修会等の開催や担い手に対する推進により、24年産の1.37haから26年産には約6.7haに増加した。しかしながら、高温耐性品種「三重23号(結びの神)」については、「結びの神(三重23号)生産販売要領」に基づき生産され、栽培基準や品質基準等の要件をクリアできた生産者のみが栽培できるものであり、栽培面積の普及拡大が進まなかった。		共同育苗施設一式(41棟 12,262㎡)	321934200	116417000	0	87313000	118204200	平成25年3月29日	高温耐性品種の作付面積拡大については、作付段階での栽培基準や品質基準等の要件はあるが、研修会等の開催や担い手に対する推進により、24年産の1.37haから26年産には6.7haに増加しており、今後も、担い手を中心に品種分散を進め面積拡大を図る。また、1等米比率の向上については、栽培管理等の指導を行うものの、気象的要因の影響が大きく、品質・収量が低下し、24年度と比較すると大きく1等米比率が低下した。今後は、生産者個々に対して、徹底した営農指導を行い、土壌改良資材の施用促進を図るとともに、機会損失のないよう徹底した病害虫防除の適期散布作業を促進する。また、同時にその年の気象条件に応じた一連の栽培管理指導を行う。品種別には、作付比率が高い品種(コシヒカリ、キヌヒカリ)で1等比率が特に低いことから、研修会等を通じて、担い手を中心に品種分散、作期分散を呼びかける。成果目標には達成しなかったが、導入施設については円滑に稼働し、計画的な良質苗の生産ができ、利用者からも評価されている。	1等米比率については、気象条件の要因により低下したものの、今後対策を講じて改善していく。高温耐性品種については、徐々に増加している。導入した共同育苗施設については、円滑に稼働し、計画的な苗生産をしていることは評価できる。今後は担い手をはじめ地域農業者に良質な苗を供給することで、生産性向上に寄与していく。		
名張市	伊賀南部農協	土地利用型作物(水稲)	1等米比率の向上(10ポイント改善)	48.9%	68.9%	64.9%	61.6%	58.9%	127%	1等米比率が12ポイント以上向上し、目標達成。また、共同利用施設(CE)の1等米比率も100%となった。	土地利用型作物(水稲)	高温耐性品種の作付割合の向上	0%	0.40%	0.33%	0.53%	1.09%	49%	計画時は0haであったが、作付推進の結果、4.9haとなったが目標達成には至らなかった。		共同利用施設整備色彩選別機1機(処理量4t/h)	43,449,000	19,950,000	0	0	23,499,000	平成25年3月15日	1等米比率については、成果目標以上の実績をあげることができ、色彩選別機の導入効果は十分であったが、高温耐性品種の作付拡大については、作付推進を図ったが、目標達成には至らなかったため、引き続き作付け推進を図っていく。	色彩選別機の導入効果は十分であったが、高温耐性品種の作付拡大については、成果目標を下回ったため、引き続き、目標達成に向け、指導、支援していく。		

伊賀市	伊賀北部農協	土地利用型作物(水稻)	1等米比率を12ポイント改善	52.9%	75.8%	71.0%	79.1%	65%	216%	1等米比率が12ポイント以上向上し、目標達成。また、阿山RCの1等米比率も100%となった。	土地利用型作物(水稻)	高温耐性品種の作付割合の向上	0%	0%	0.47%	0.56%	3.0%	19%	計画時は0haであったが、作付推進の結果、3.37haとなり微増した。	共同利用施設整備 色彩選別機1機(処理量8t/h)	48,615,000	22,400,000	0	0	26,215,000	平成25年1月10日	1等米比率については、成果目標以上の実績をあげることができ、色彩選別機の導入効果は十分であったが、高温耐性品種の作付拡大については、推進強化を図ったが、思うような結果とならなかったため、引き続き作付け推進を図っていく。	色彩選別機の導入効果は十分であったが、高温耐性品種の作付拡大について、成果目標を下回ったため、引き続き、目標達成に向け、指導、支援していく。
伊賀市	株式会社伊賀の里クモク手づくりファーム	野菜(トマト)	秀品その他品質の上位規格品の割合の増加	64%	66%	82%	74%	80%	63%	栽培環境の制御が可能になったため、秀品率が10ポイント以上増加した。しかし、利用している水源の水質不良による影響が発生し、一時期秀品率が悪化したため、最終年度は目標をやや下回った。	野菜(トマト)	全出荷量に占める加工向けまたは外食・中食向けの割合	53%	73%	51%	57%	78%	16%	長期栽培が可能となり、周年供給できるようになったため、生産量は順調に増加し、加工向けや外食・中食向けへの利用量も増加したが、割合的にみると、その割合は微増にとどまった。	低コスト耐性ハウス 10.92a×2棟	49,077,000	22,068,000	0	0	27,009,000	平成25年3月20日	1年を通じて栽培できる技術が構築され、収量が飛躍的に向上した。整備当初に栽培に利用していた水源の水質がトマトの生育に不向きだったことも明らかとなり、新たな水源を確保することで、ハウス導入とともに良好な栽培環境が整ったことで更なる向上が期待できる。	低コスト耐性ハウスの導入効果は十分にあり、良質なトマトが生産可能となったが、成果目標を下回っているため、引き続き、目標達成に向け、指導、支援していく。
紀宝町	三重南紀農業協同組合	水稻	直接販売割合の増加	5.1%	9.0%	7.7%	8.7%	16.0%	33%	学校給食向けの販売やJA店舗での販売が計画どおり進まなかったため目標達成に至らなかった。	水稻	高温耐性品種作付割合の4%増加	0%	0%	3.0%	5.5%	4.0%	138%	高温耐性品種の導入が進み、目標を達成した。	乾燥調整施設(乾燥機30石5台、20石4台、粃すり機6台/チ1台)	47,611,200	21,426,000			26,185,200	H24.8.31	直接販売等原料の増加に向けた取組みは、作付面積はクリアしており販売量も増加しているものの、学校給食需要の減少やJA店舗縮小等により、達成率は33%であった。高温耐性品種の作付は138%で達成することができた	学校給食向けは概ね上限に達しているためそれ以外の部分で販売対策を強化できるように指導を継続していく。
御浜町	(有)御浜柑橘	果樹(かんきつ)	上位規格品(幻、メチャ甘)の割合向上	9.10%	5.8%	10.0%	2.7%	18.6%	-67%	26年度は8月の長雨・日照不足や10月の2つの台風の影響により上位規格品割合は上げられなかった。	果樹(かんきつ)	振興品種への改植の推進	18.4%	25.0%	25.8%	28.0%	27.4%	107%	改植は計画通り進めることができた。	集出荷貯蔵施設(腐敗果センサー1台、周辺機器1式)	10,237,500	4,875,000	0	0	5,362,500	H24.10.31	上位規格品を増やすためにマルチ栽培の面積を増やし、高糖系の品種を新たに植えていく。	天候に左右されにくい栽培方法、作期等の面から総合的にリスクの分散をし、安定的に高糖度のみかんが生産できるように指導を継続する。
御浜町	(有)すぎもと農園	果樹(かんきつ)	上位規格品の割合向上	0%	32.20%	33.80%	28.8%	12.50%	230%	26年度は8月の長雨・日照不足や10月の2つの台風で上位規格品は伸びなかったものの晩生品種で挽回することができ目標を達成できた。	果樹(かんきつ)	加工向け割合の向上	17.90%	6.10%	16.40%	24.30%	27.10%	70%	H24は雨年のため果実が肥大したが、水分が多く加工に適した糖度の高いみかんは少なかった。H25、H26は順調に実績を伸ばしたが、目標には一歩及ばなかった。	集出荷貯蔵施設 選果機一式(選果機選果機1条、糖酸度センサー1台、外観センサー1台、水洗い機)	46,581,150	22,181,000	0	0	24,400,150	H24.10.31	上位規格品の割合は向上しているが、加工品は目標を達成できなかった。改善策として、ジュースをホテル等へ卸す商談がまとまっているので増やしていきたい。また、百貨店では青果と同様に加工品の顧客確保に努める。具体的には百貨店での営業回数を去年より増やす。注文が増えた場合に備え、加工品を冷凍保存しておく。	上位規格品割合の向上については、天候不順の中でも作期分散により概ね目標を達成できている。加工向け割合の向上にむけては具体的方法が定まっているので必要に応じてサポートしていく。

都道府県平均達成率 51.4% 平均達成率は51.4%となり、全取り組みで目標が未達成となっている。近年の異常気象の多発など、厳しい生産状況が及ぼす影響が大きいが、今後も目標を達成するため、適切な指導を行う。

- (注) 1 別紙様式1号の2のIに準じて作成すること。
- 2 要領第1の1の(2)のアの(ア)から(ウ)の場合にあつては、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。
- 3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。
- 4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。
- 5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。
- 6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。